

母子恋愛慕情

～母ちゃん、俺の子供を産んでくれ～

母と子の間に恋愛関係は成立するかー

濡れ枝垂れ

答えはもちろん…

う乱に腰を振っていた。
シンコ。
シンコに息子チ●ポを
に酔いしれていた。

そう、
それなの
ぷりぷり
が計す
膚になつてしまった。

母ちゃんとの長い
お互いに向かい合
俺は目の前に就
一晩中文尾に就

母ちゃんのカラダを思
朝まで行かだ
朝まで行かだ
朝まで行かだ

母ちゃんが卑猥な
俺チンポを懸

ベッドに腰掛け、
母ちゃんとキスを交わす。



夏―

終業式を終え、学校を飛び出した俺は足早に駆け出していた。

うだるような夏の暑さに加え、セミの声が四方からけたたましく響き渡り、山の喧噪に飲み込まれそうな感覚に陥りそうになりながら、自宅までの畦道を急ぐ。

「あと少し…もうちょっとで会える…」

数時間前に玄関で見送られたばかりだが、今はあの女に会える嬉しさと期待で胸が一杯になっていた。

俺は足早に駆けっていく。
「母」が待つ家へ…

やっこの思いで家路についた俺は
玄関で雑に靴を脱ぎ捨て、
エアコンのある居間へと向かう。

ただいまー…

エアコンの前に立ち、
吹き出る汗を冷風で飛ばしていると
スタスタと足音が聞こえてきた。



母が元気な声で台所からやってきた。

この女が俺の母、由紀子だ。

おかえりっ
外あつついわねー

ふふ

そこそこにして
切り上げちゃった。
あ、スイカ食べる？

おー食べる食べる！
やい！

ただいま。
畑は？

たか

母は亡き父が残した畑で
一人で農業を営んでいる。
当然俺も手伝ってはいるが、
女手一つで父の大切にしていた畑を
守っている母には感心する。

父が亡くなった後、
母の美貌と肉体に惹かれ
言い寄ってきた男は大勢いたが、
母は全て一蹴していた。

そんな母ちゃんだが、
実はカレシがいる。
「俺」だ。

母ちゃん、今度の日曜
海にデート行かね？

ドキッ♡

は！？
きゅ、急に何よ。

いや、だって…
俺たち「恋人」だろ？

…こないだの、本気だったの？

当たり前じゃん。

…まあ、いいけど…。

ようし！楽しみだ！

何故母子で恋人関係になったのか。
それは一週間前に遡る…



その日、母ちゃんは珍しく
風呂上がりに晩酌をしていた。

あ♡アンタ、ちよつと母さん
にお酌なさいよお♡

未だオシナを知らない俺にとって
母ちゃんの裸は余りにも目に毒だった。

カタイこと言わないの♡
ほら、座んなさい!

ポイン♡

うお!
か、母ちゃん服着ろよ!

つう♡

コサ♡

お酒に弱い母ちゃんは既にほろ酔い
になっており、体に巻いたバスタオルが
今にもはだけそうになっていた。

バスタオルから覗く生白い太腿、
見惚れるほどの爆乳が
たふたふといやらしく揺れ
オスの性欲を存分に刺激する。



何よー。さっきから
顔真っ赤よ？

か、母ちゃん…
胸、見えてんだって…

母ちゃんのたわわに実ったエロ爆乳から
無防備に露わになった乳首に
反射的にしゃぶりつきたくなる。

？
アラやだ、ホントだ。
やだもう、エッチねアンタ

は！？
そんなんじゃ……！！

母ちゃんが意地悪な顔をして
笑う。しかし、俺のチンポは
もう限界までバキバキに
勃起していた。

ぽろん♡

んん

ほーら、アంతの大好きな
お母さんの乳首よお……♡

ち……ちが……っ！

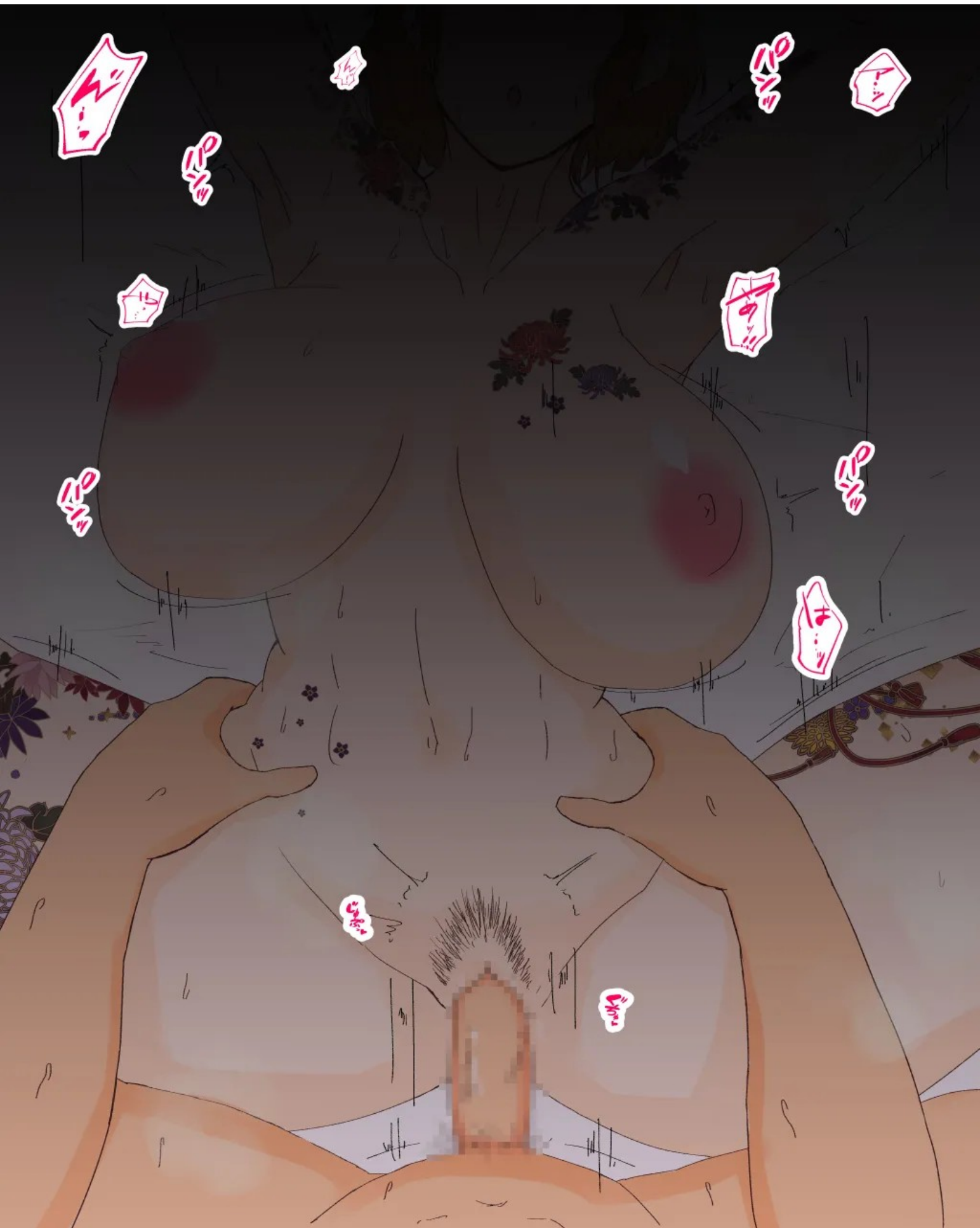
今まで我慢していたオシナへの
欲求が、母ちゃんへの想いが、
母ちゃんのカラダの
あまりの魅力に止まらなくなる。

あ、チューでもしたげよっか♡
昔はよくしてたじゃない♡
はい、チュー♡
あはは！

か、母ちゃん……
俺、もう……もう……！！

もう俺の理性は限界だった。







マンコ…っ！
マンコやべえ…っ！

あっ♡あんっ♡
ダメ…っ♡

ビクッ♡

ん♡

ブルン♡

はあ…っ！はあ…っ！
ごめんっ、母ちゃん…っ！
腰…止まらない…っ！

おっ♡おっ♡
アタシたち、親子…っあんツ
なのよっ♡

気付けば俺は一心不乱に腰を振っていた。
夢にまでみた、女のマンコ。
それも、母ちゃんのマンコに息子チンポを
突っ込み、女体の快楽に酔いしれていた。

そう、俺たちは実の親子なのだ。
それなのに俺は、このいやらしいメスの、
ぷりぷりに肉が詰まったこの母穴に
虜になってしまった。

タタッ

ズッ♡



空が白み始めても
俺と母ちゃんの交尾は続いていた。
際限なく射精し続けた母ちゃんのマンコには
俺の精子がたっぷりと注がれていた。

んっ♡♡ホントは
中はダメ、なのよっ♡

母ちゃんもようやく観念したようで
最後のほうはキスしながらの
生膣内射精も気にならなくなっていた。

こうして俺の童貞は
実母に捧げることとなった。



母ちゃんとの長い交尾を終え、
お互いに向かい合う。
俺は目の前のこの女、実の母親と
一晚中交尾に耽ったのだ。

……お、おはよ。

はあ……

ドキ……

ア

う、うん……おはよう。

はあ……

ドキ……

(はあ)

ア
ビッ

くっぴん

母ちゃんのカラダを見るたびに
朝までの行為が思い出される。
揉みしだいたデカパイ、
幾度となく重ねた唇、そして極上の肉穴。
あの身体と、俺はセックスしたのか。

……な、なんか食べよっか！
母さん、朝ごはん作ってくるから！

(はあ)

母ちゃんも恥ずかしいのか
いつものハツラツさが無い。
お互いにどぎまぎとした時間が続く。

……あのさ、母ちゃん。
お願いがあんだけど……

はあー!?
カノジョになつてくれ
ですって!???

う、うん…

母ちゃんが狼狽えている。
そりゃそうだ。いきなりこんなこと
言われても驚くだろう。
でも、俺は母ちゃんが
本気で好きなんだ。

頼む!!

夏だけ!その間だけでいいから!!

え…
いいきなりなんなのよ…

必死に頼み込む。情けないが
俺にはそれしかできない。
すると…



.....はあ...

...ま、まあ昨日の件は
母さんが悪かったところもあるし...

.....

ええ、カノジヨになってあげる。

!!やった!!
母ちゃんありがとう!!

...しょうがないわね。
夏休みの間だけよ?

!じ、じゃあ...!

もう、はしゃいじやって...
ホントに夏休みだけよ?

...というわけだ。

俺は夏の間だけ母さんと
付き合うことになった。



それから今日までの一週間は
サカった猿のように母ちゃんを求めた。
初めてできたカノジヨ。
それだけで俺は舞い上がった。

アヤ

こゝアヤ

ちよ、ちよっと！
母さんまだ洗濯モノが…！

ごめんっ！母ちゃん見てたら
もうこんなになっちゃって…！

♡

♡

♡

グン♡

グン♡

ズルん

うん



グン!!

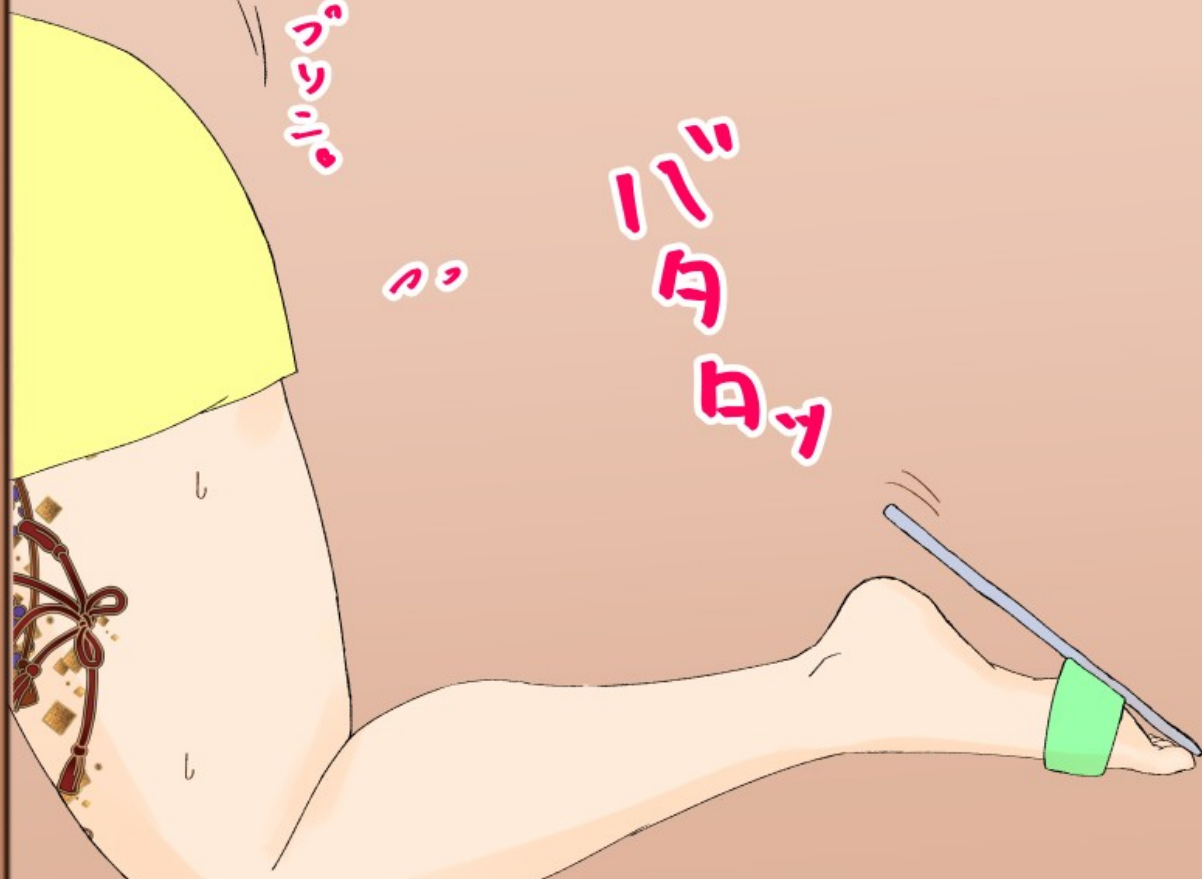
母ちゃんっ!
好きだっ!

あっ♡
ちよつと…っ!
いやあっ♡

ぷん。

ッ

バ
タ
ッ







あ

パン

あ

パン



あ

ん



あ

パン



あ



ん



あ

パン

パン



…あの時はただの
カラダ目当てかと思っただけだね。

そ、そんなわけないだろ。
俺は本気で母ちゃんのこと…

はいはい♡カレシなんだから
母さんのこと
しっかりエスコートしなさいよ♡

キ
ツト…

けらけらと母ちゃんが笑う。
今一つ俺の想いが伝わってないらしい。
どうしたものか…。

お、おう。
任せとけ。

とにかく、
俺は人生初デートの約束を
取り付けることに成功した。



〜海デート〜



デート当日ー

俺と母ちゃんは地元の海水浴場に来ていた。
照りつける日差しが肌にヒリつき、
潮風が頬を撫でるのが心地いい。
この砂浜は地元民でも知らない
穴場スポットになっていて
日中でも海水浴客がめったに來ない。

母ちゃんは
岩陰で俺が渡した水着に着替えている。
実はこの日のために俺は
母ちゃんに着て欲しい水着を
密かに用意していた。

しばらく待っていたら、
ザツザツ、と足音が聞こえてきた。
母ちゃんが着替え終わったようだ。

ザツ
ザツ

…アンタねえ…
この水着…

何やらぶつくさ言っているようだ。
俺は期待で胸がはち切れそうに
なりながら振り向いた。

うお………!!

アンタねえ、こんなの母親に
着せるんじゃないわよっ!

母ちゃん…エロ過ぎ…ッ

あんまり嬉しくないんだけど!

わぁ…

眼前に母ちゃんの水着姿が露わになる。

白い肌を申し訳程度に

覆うビキニが砂浜に映える。

下品なデカパイ、締まった腰、張りの良いエロ尻、

母ちゃんの「セックスアピール」を

最大まで際立たせていた。

ふぁっ♡

ごめんごめん!

母ちゃん、最高にキレイだよ。



あ、ありがと…♡

そう言いながら
顔を紅くしてもじもじしている。
こんな母ちゃんはなかなか見れないから
貴重だ。そんな姿を見ていると…

ちよつと！
遊びに来たんじゃないの！？

流石に怒られてしまった。

…あつ、ヤバイ
勃ってきちゃった。

わ、分かってるって！
ちよ、ちよつと飲み物買ってくる！



結構遠かったな…

自動販売機がなかなか見つからず
ちよつと時間がかかってしまった。

少し不安を感じながら歩いていると
遠くに母ちゃんと、二つの人影が見えた。

母ちゃん、まだ怒ってるか…？

ん？なんだ、アイツら…

戻ってくると母ちゃんが
若い男2人に話しかけられていた。

お綺麗ですねー
モデルでもされてるんですかあ？

母ちゃんはそんな男どもを
心底面倒くさそうに
あしらっている。

いえ、あの…
人待ってるんで。

どうやらナンパを受けているらしい。

あいっら……

俺はその輪の中に足を進めた。



あの、なんか用ですか？

はい…？

…！！

あ、いや…その…

俺に後ろから話しかけられた
男たちが振り返り、俺の顔を
見るなりぎよつとした顔をする。

自分では分らないが、
今、俺は相当怖い顔をしているらしい。



その女、俺の彼女^{ひと}なんで。

そう言って二人は
トボトボと海岸を後にしていった。

は、はい……
すいません……

キュン……♡

……ふう。



大丈夫か、母ちゃん。

え、ええ……♡
…ありがとう。

トワニ…♡

…ふっ♡
そうね、アンタはアタシの
「彼氏」だもんね♡

当然だろ、母ちゃんは
俺の「彼女」だからな。

！か、母ちゃん…！

……ねえ、こっちきて……♡



キス、しよっか…♡

う、うん…♡

ドキ…♡

さっきはカッコよかったわよ…♡

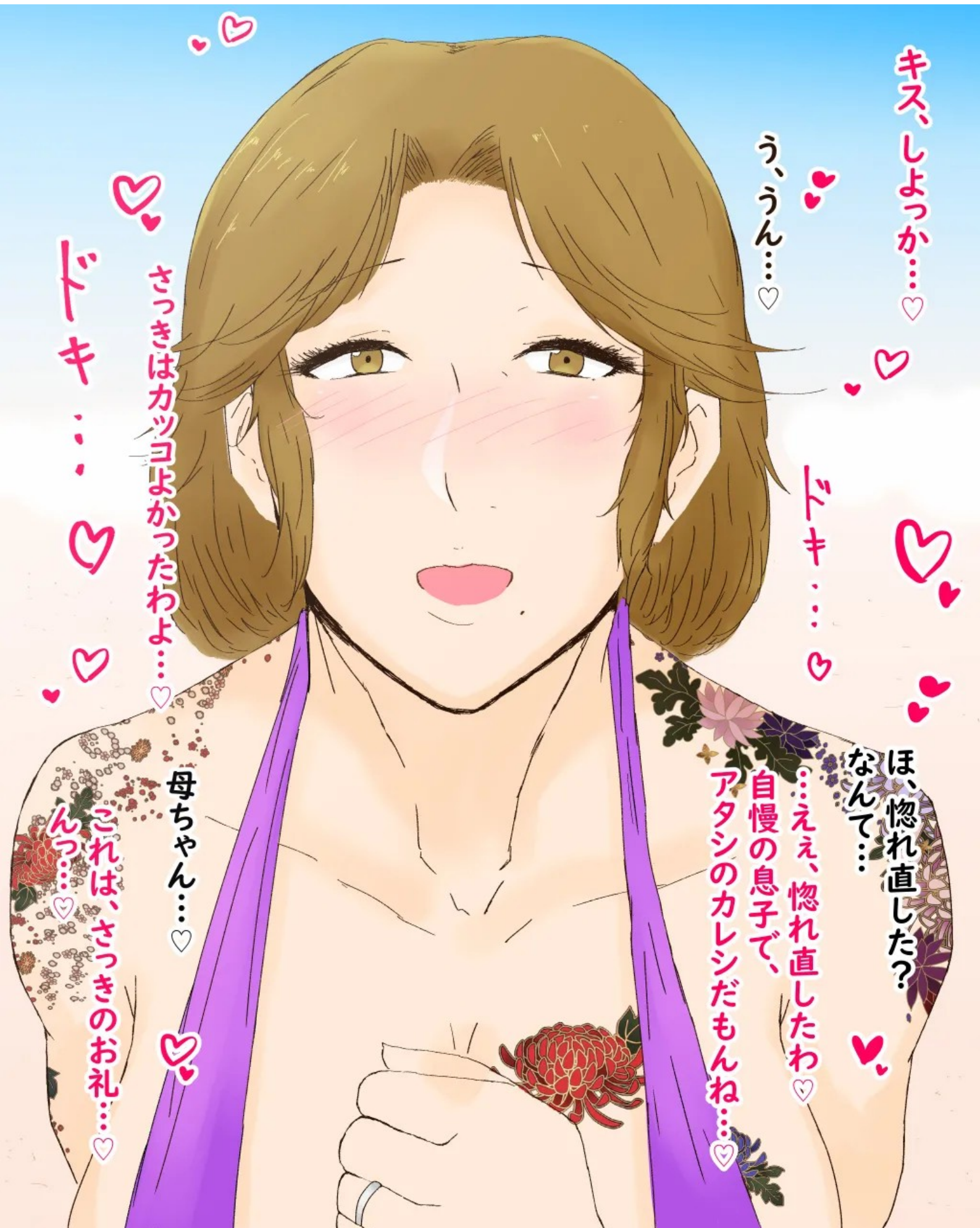
ドキ…♡

ほ、惚れ直した？
なんて…♡

…ええ、惚れ直したわ♡
自慢の息子で、
アタシのカレシだもんね…♡

母ちゃん…♡

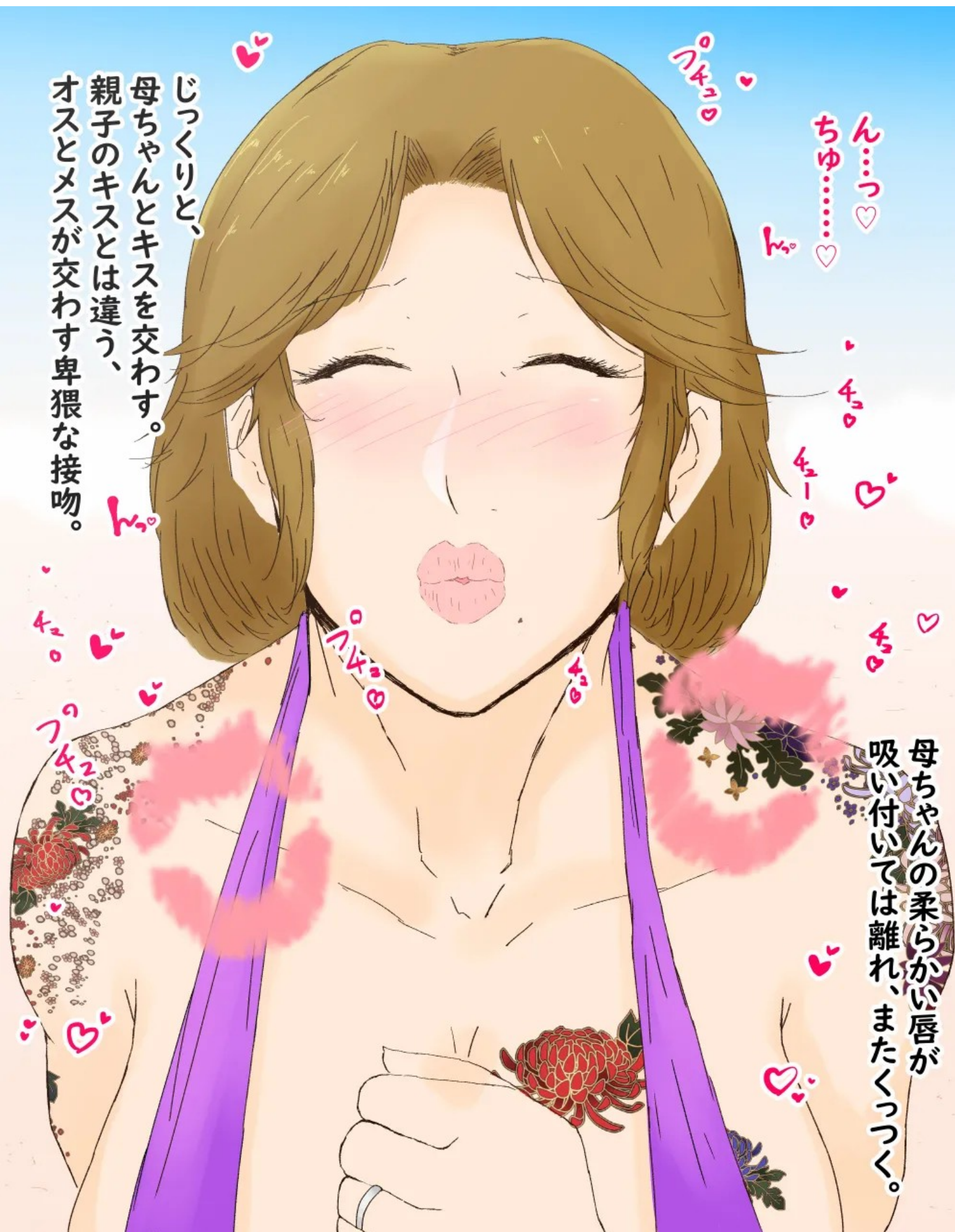
これは、さっきのお礼…♡
んっ…♡



じっくりと、
母ちゃんとキスを交わす。
親子のキスとは違う、
オスとメスが交わす卑猥な接吻。

んっ
ちゅっ
……

母ちゃんの柔らかい唇が
吸い付いては離れ、またくっつく。



(い)

んっ……♡ふぁ……♡
はぁ……はぁ……♡

(い)

ちゅ……♡
ぽん♡

ドキ♡

(い)

はぁ……はぁ……！

ドキ♡

母ちゃん、
俺、ヤバイ……！

(い)

やりたい……！

(い)

……いいわよ……♡
今はアタシたちだけだしね……♡
恋人セックス、しよっか……♡

ギュ♡

既に俺のチンポは痛いほどに
勃起していて、
母さんと交尾したくて
堪らなくなっていた。

ほ、ホント
アンタのチンポおっきいわね…

はあ…はあ…!!
入れるぞ、母ちゃん…
息子チンポ挿すぞ…っ

スゴ…♡

♡

きて…♡
アンタのチンポで
母さんをオナナにして♡

母ちゃん、好きだッ!

ビクッ

ビクッ



母ちゃんのむっちりエロマンコに
いきり立ったチンポをハメ込む。
膣内がみちみちと音を立てるように
肉棒に沿って広がっていく。

おっ♡おおんっ…♡

ズブッ♡

チンポ…

母ちゃんが低い声を出して喘ぐ。
そのエロ声がたまらない。

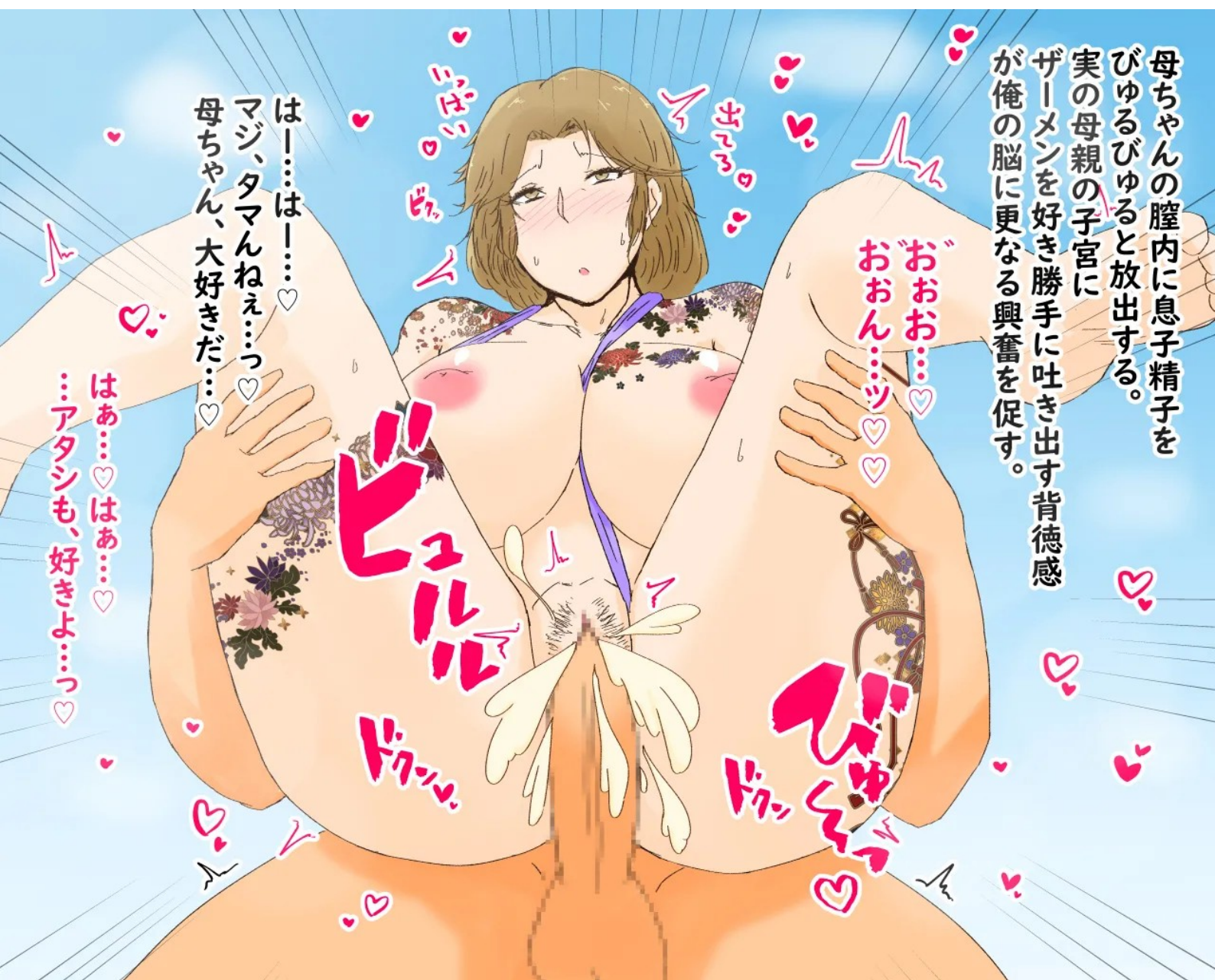
あああ…♡
気持ちいい…♡



母ちゃんの膣内に息子精子を
びゅるびゅると放出する。
実の母親の子宮に
ザーメンを好き勝手に吐き出す背徳感
が俺の脳に更なる興奮を促す。

はー……はー……♡
マジ、タマンねえ……♡
母ちゃん、大好きだ……♡

はあ……♡はあ……♡
…アタシも、好きよ……♡



結局、俺たちは
海もそこそこに母子交尾に
耽ってしまった。
水着も脱いでしまい、
お互い素っ裸になって性欲を貪った。

母ちゃん…ッ！
も、俺…限界…！

ごめんッ♡
もうちよつとでイキそうなのッ♡
ああん…っ♡

あまり海は楽しめなかったが、
母ちゃんと一緒に過ごせたから
よしとしよう。



海綺麗で
楽しかったわねっ♡

そ、そうだな...

今度はどこ行こうか？
夏祭りとかもいいわねー♡

母ちゃんに精も魂も抜かれて
帰りの電車は爆睡してしまった。

でも、母ちゃんの楽しそうな顔が見れたから
俺はそれで充分だ、そう強く思った。

こうして、俺と母ちゃんは「親子」のではなく
「恋人」としての関係を深めていった。



く恋から愛く



ん……これは……夢か？

……

……

……！……そんな……

誰かが話し合っている声をする



…それで、アタシたちを
助けてくれるんですね？

……分かりました。

ゆ、由紀子…ッ

勿論ですよ、奥さん。
俺は一度言ったことは
絶対に実行しますから…

いや、違う…
これは…昔の…記憶…



場面が急に変わる
襖…？

中から母ちゃんの声が聞こえる…

アッ♡

ヤッ♡

ハッ♡

ハッ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ああ…これは…
この光景は…
俺は襖をそろりと開けた…

ハッ♡

ハア…ハア…
いいねえ…奥さん…♡
締めもいいし、最高だよ…

襦の隙間から見えたのは
あられもない姿をさらした
母の肉体だった。
母の股の間から
白い液体がどろり、と溢れ出している。



あっ…♡あひ…♡♡
も、もう堪忍して…♡

いやあ…まだまだ…♡
今日は一晩中だぜ、由紀子さん…♡

あああ…♡

再び場面が切り替わる。
これは
母ちゃんが出ていく日の朝だ…

由紀子さん、そろそろ…
龍二さんお待ちです。

…由紀子、すまない…ッ

お母さん、どっか行っちゃうの…?

…じゃあ、行ってくるから。

…ごめんね、
でもすぐに戻ってくるから…ね?

お母さんッ!



その日から、
母ちゃんはしばらくの間
俺たちの元から離れた。
その間のことは今も俺には分からない。

俺の顔を見るなり、
母ちゃんは俺を引き寄せ、
「ごめんね」と
ぎゅっと抱きしめてくれた。

一年ほどたった日、
急に母ちゃんが家に戻ってきた。
最後に見た母ちゃんの姿とは違い、
体中には鮮やかな絵が描かれていた。

俺はその時、
母ちゃんのカラダから
強烈なオナナの匂いを感じた…



.....朝か.....

玄関のほうから
母ちゃんの声がする。

ごめん、今行くー！

ちよつとー！！
今日墓参りよー
いつまで寝てんのー！！

俺は慌ただしく身支度し、
部屋を後にした...

父の墓参りを終え、
家に帰ってきた。

暑かったわねー
年々暑くなってない？

？どうしたのよ、さつきから
具合でも悪いの？

.....

母ちゃん、今晚デートしない？



急ねえ、別にいいけど。

母ちゃんからオッケーをもらう。

いいわね！
今日は派手に遊んじゃおうか♡

ちよつとよそ行きの服着てさ、
街でも行こう。

じゃあ、夜からで。

…父ちゃん。俺は今日、
母ちゃんを……俺のオナナにするぞ。



夜になり、俺たちは街へと繰り出した。
夕食を食べたり、買い物をしたり：
はたから見れば、ただの中の良い親子。

意外とおいしかったわね。

また行くか。

だが俺は、自分の中で
母ちゃんに対する想いが、
一人の女性に対する愛へと
変わっているのを感じた。

「実の母を本当の意味で
自分のオンナにしたい」
その思いが確信に変わった。

そして、
夜もいい時間になったころ、
俺たちは親子でラブホに入った。



入っちゃったわね…
親子で…♡

お、おう…

部屋を見るなり分かる、
明らかにセックスするための部屋。
そんな場所に母子で入ったのだ。
二人でサツとシャワーで汗を流し
そそくさと風呂を出ると、

あ、ちよつと着替えてくるから
休んでて。

そう言って母さんはもう一度
風呂場へ行った。
そして、しばらく待っていると
母さんが出てきた。



どう、かしら…♡

か、母ちゃん…
どうしたんだ、その格好…♡

ドキ♡



ドキ♡



オプションがあったから
付けてみちゃった…♡
あ、アンタが喜ぶと思って…



ハア…ハア…
マジ、最高だよ…母ちゃん…♡

…服の下、もっとスゴイんだけど、見る…？

！み、見る見る！



ワンピースを脱ぐと、
いやらしい衣装を身に纏った
母ちゃんのカラダが露わになった。

は…やば…っ
母ちゃん、エロ過ぎだろ…

ここで俺はふと
母ちゃんの胸元のネックレスに
見覚えがあることに気付く。

…このカラダ、
ゼーンぶ…アタのよ…

母としての仮面を脱ぎ捨てた
一人の「極上」の娼婦がそこに立っていた。

あ、あれ…
そのネックレス…



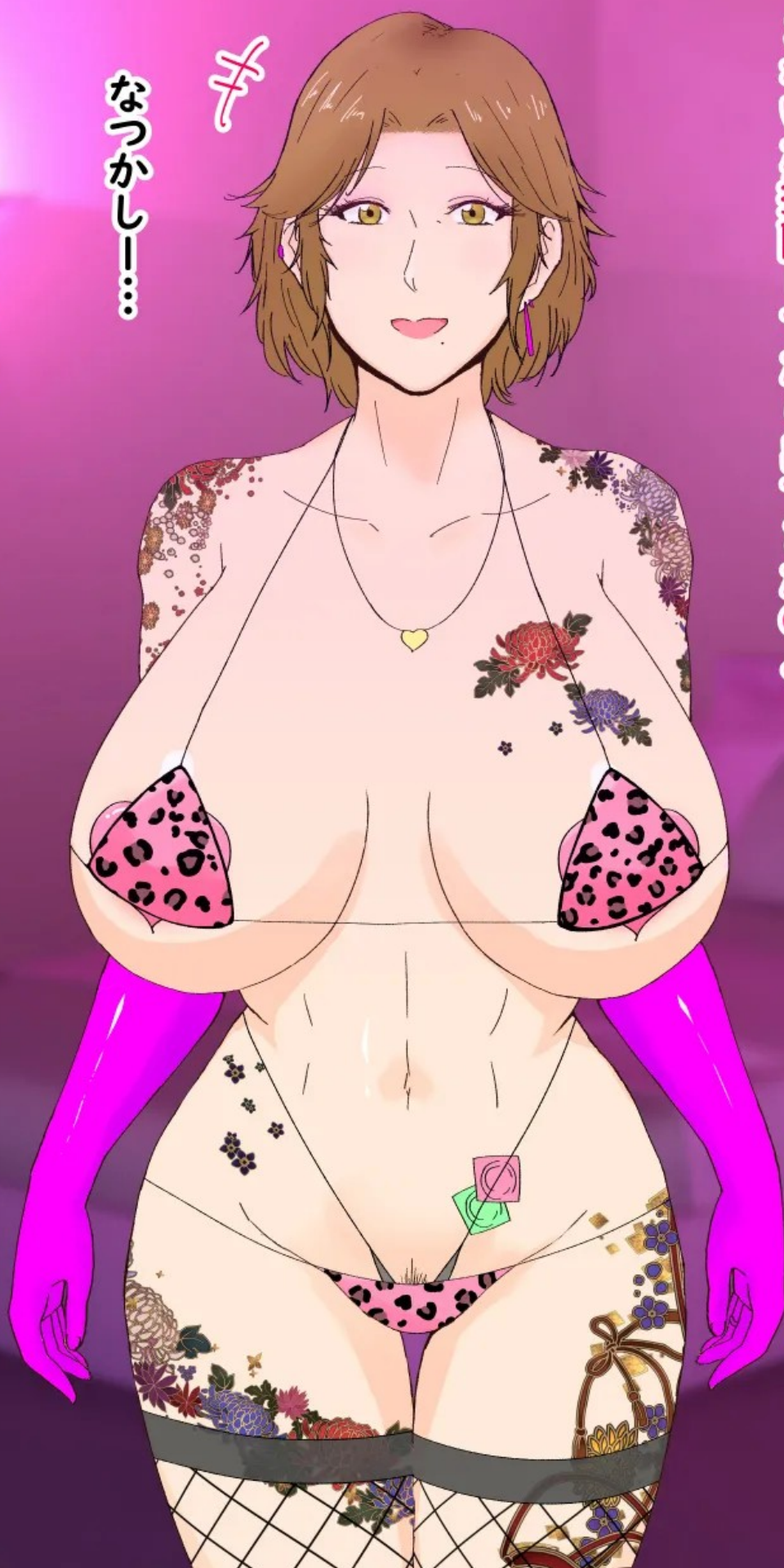
あ、覚えてた？
コレ、アンタがちっちゃいころ
母さんにくれたやつ。
こないだ掃除してたら出てきたのよ。

む、昔のはなしだろ！

なつかしー…

あの頃のアンタは
ホント可愛かったわー♡
いつもいつも「お母さん」って♡

……でも今は
すっかり逞しくなって……♡



.....母ちゃん、いや由紀子。

.....はい.....♡

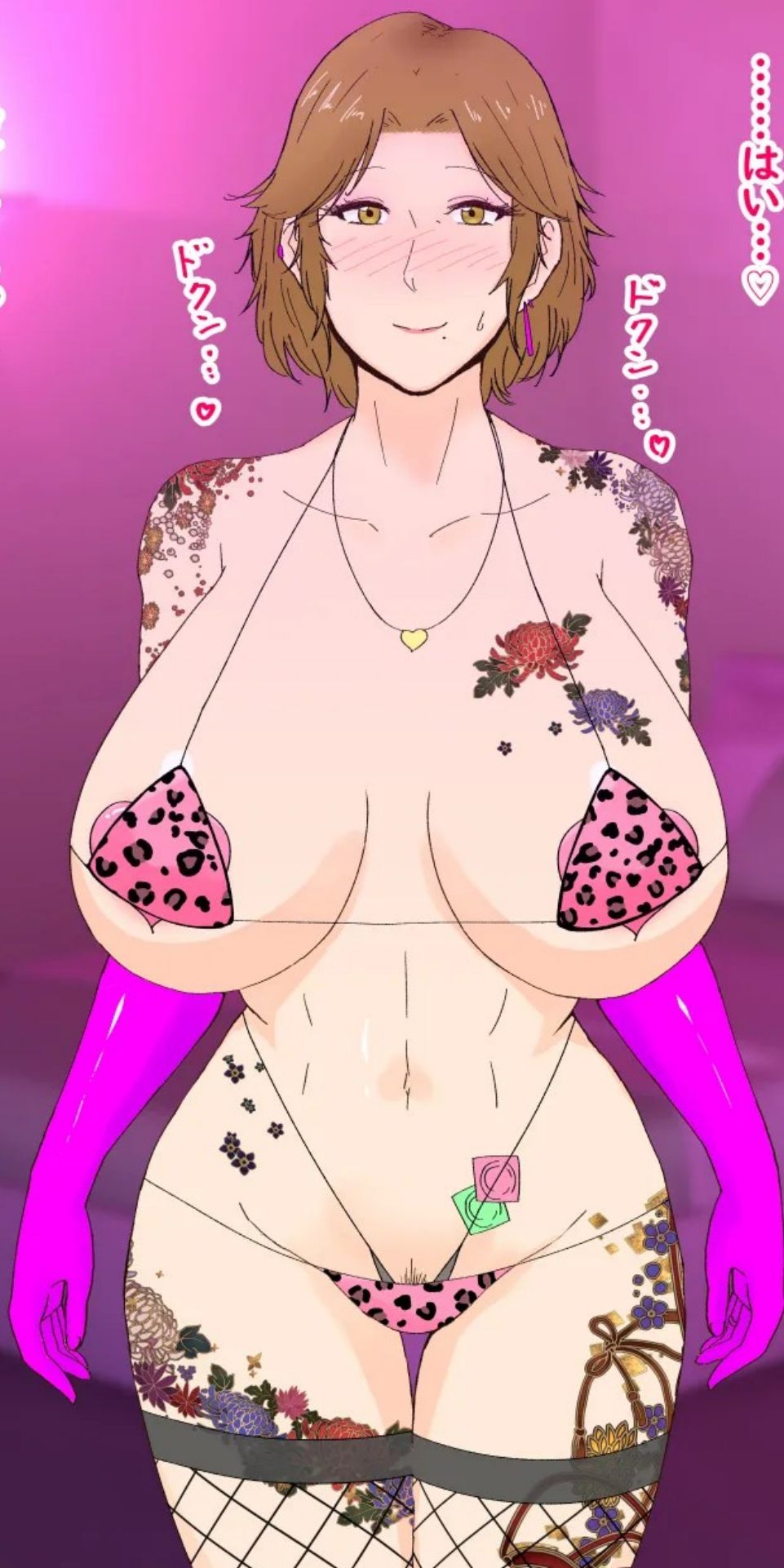
ドクン...♡

ドクン...♡

...愛してる。

本気で俺の女になって欲しい。

遂に言った。
実の母親に息子のオシナになってくれ、と



.....

……正直、いつか言われる
かもって思ってた……♡

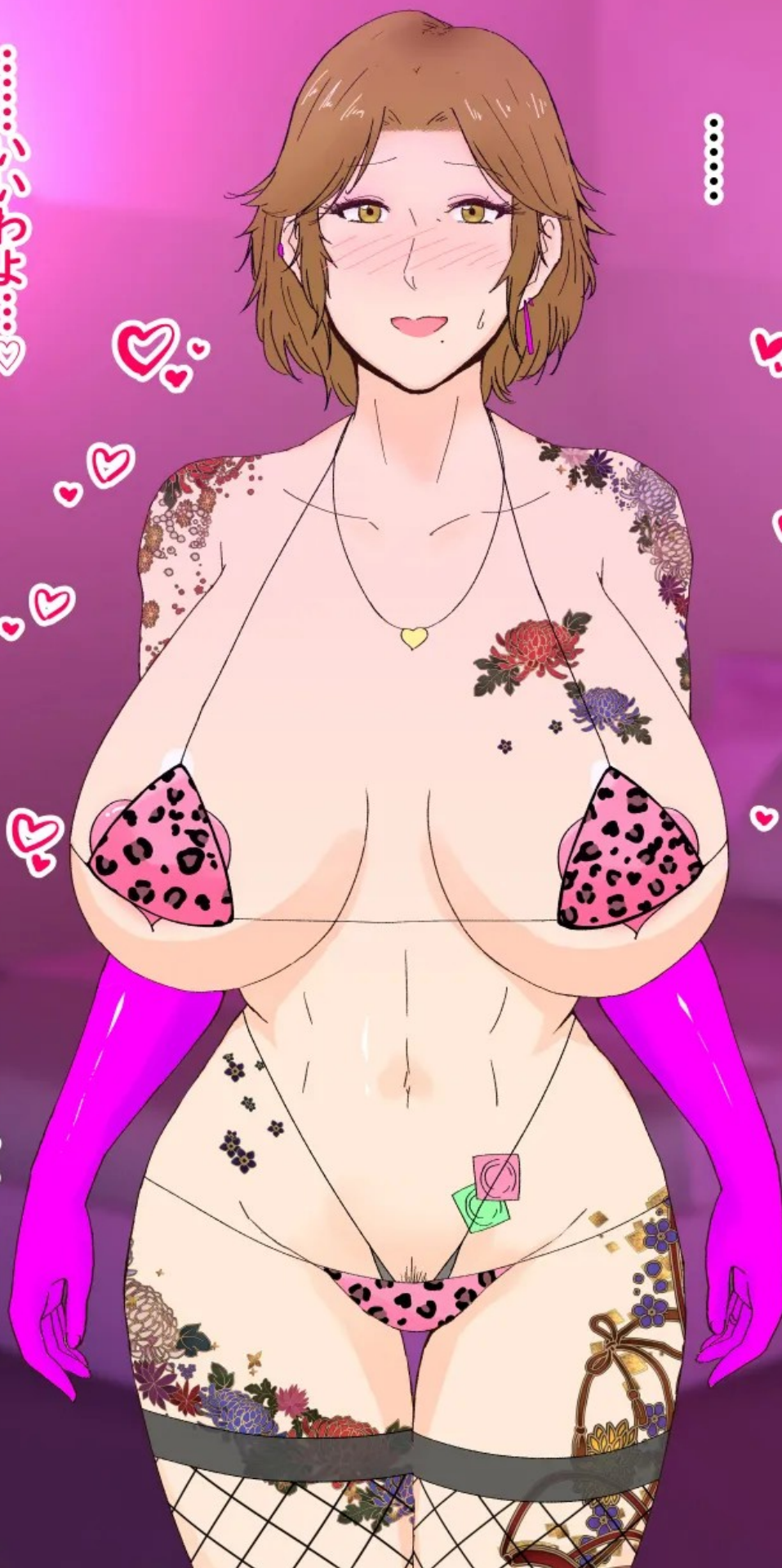
……

……いいわよ……♡
母さんを……由紀子を妻にしてください。

もう……♡これから
母さんのダンナになるんでしょ？

母ちゃん……！

あははっ
そんな泣きそうな顔しないの♡



母ちゃん、幸せにするから。

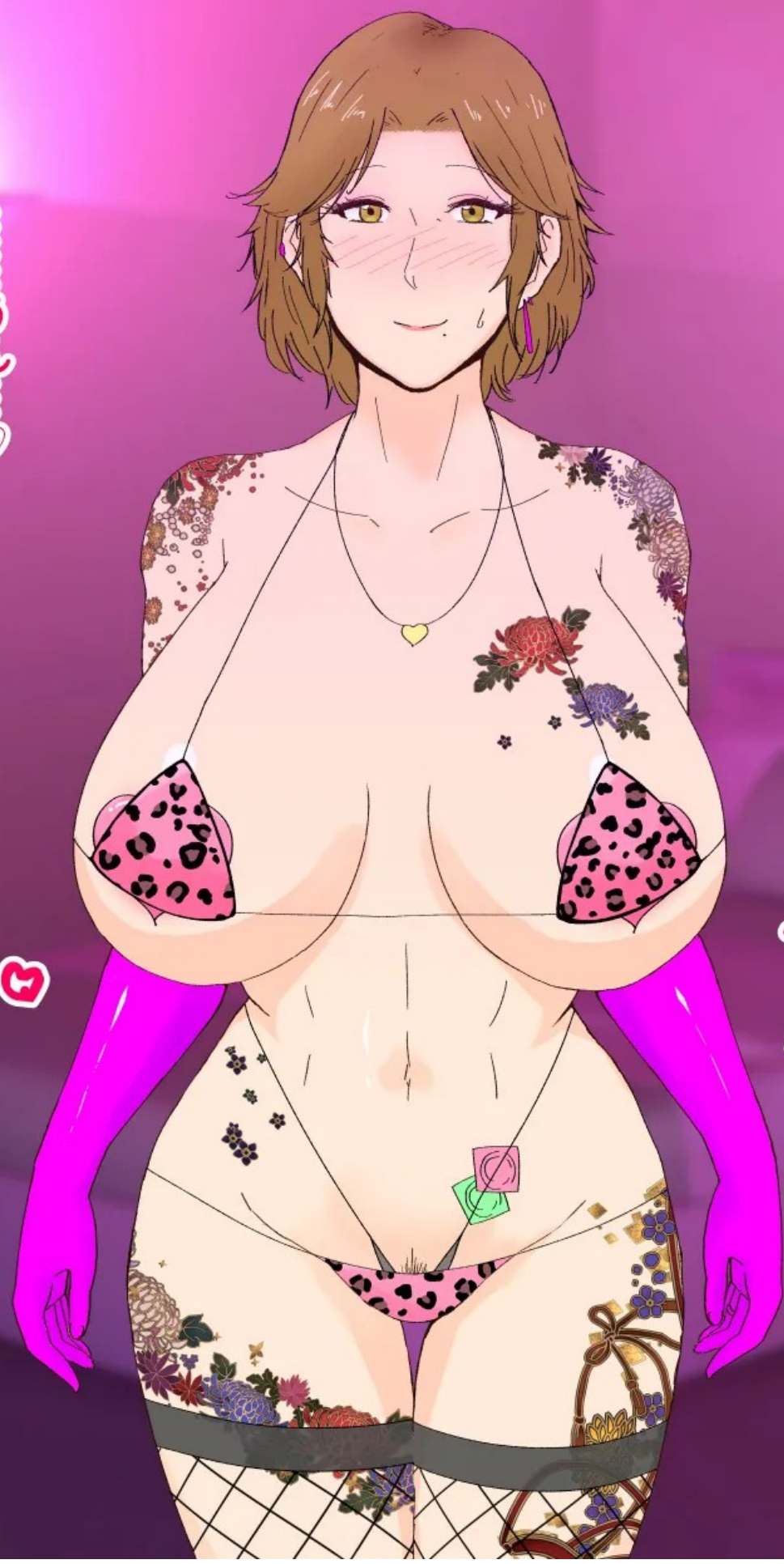
由紀子...

ドクニ...♡

うん...♡

ミクニ...

あな...♡
アナタ...♡



ベッドに腰掛け、
母ちゃんとキスを交わす。

幼いころの
母と子の可愛いキスではない。
自らの愛欲を満たすための
オスとメスの接吻。

母ちゃんの唇が忙しく
俺の口を啄む。
この男は自分のモノだと
マーキングするように。

体中にキスの奉仕を受け、
母ちゃんの口紅がべっとり
と残っている。



母ちゃん。
今日、孕ませるからな。

母と交わり、
子を成すことを宣言する。
正真正銘、
自分が息子のオンナになったことを
理解してもらうために。

……いいわよ……
母さんにアンタの子種
しつかり種付けしなさい……

ああ。由紀子は俺のもんだ。



はあ…♡はあ…♡
きて…♡

フリ♡

早く母親マシコに
息子おちんぽハメ込んで…♡

(はあ)

(はあ)



(はあ)

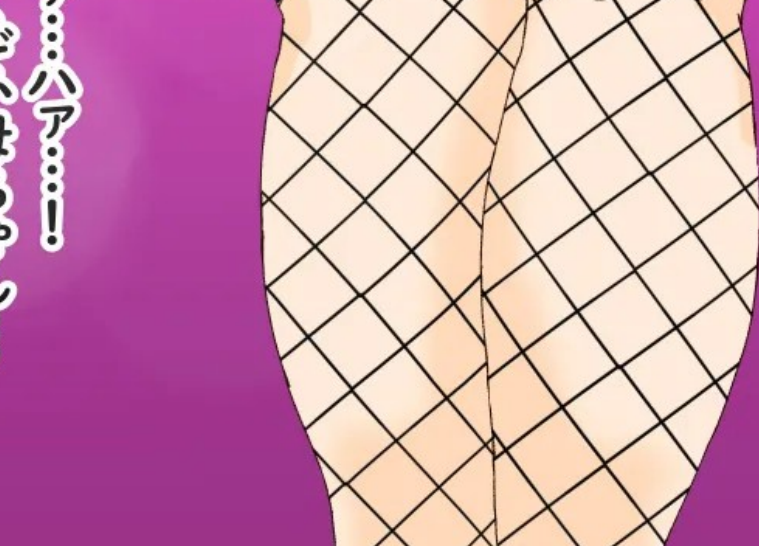
(はあ)

ハア…ハア…!!
いくぞ、母ちゃん…

母ちゃんが卑猥なデカ尻を振り
俺のチンポを懇願する。

はあ…♡

フリ♡



母ちゃんの子宮深くまでチンポを突っ込むと
母ちゃんの野太い声が響く。

晴れて夫となった俺のチンポを
根元まで咥え込み、肉襷一つ一つが
吸盤の用に吸い付いてくる。

ふー……ふー……!!
や、やっぱり由紀子のマンコ最高……♡

おおおお……♡♡♡♡♡

ビズン♡

はぁ♡

ブズン……♡

ズン♡

ビズン♡

はぁ♡

はぁ♡

あっ♡あんっ♡あっ♡あっ♡

ひゅ

あ♡
あん♡

ぬほ

ぬほ

ほん

母ちゃん!由紀子ッ!
俺の子供欲しいかッ!

パンッ

あ♡
♡

♡

♡

♡

ぬほ

おっ♡♡♡
ほ、欲しいっ♡

母さんに赤ちゃん産ませてえ♡

ほちゅ

ぬほ

♡

パン

ハア…ハア…!

たっぷり息子ザーメン出すからな!
全部受け止めてくれッ!

パン

ほちゅ

♡

♡

ぬほ

ぬほ

♡

ぬほ

ぬほ

ぬほ

♡

♡

♡

ありったけのザーメンを
母ちゃんのエロマンコに
放出する。

くあ…ッ！
まだ出るっ、まだまだ出すぞッ！

恐らく膣内では
母ちゃんの卵子に向かって、
数億にも及ぶ俺の精子が
群がっているのだろう。

あっ♡出てるっ♡♡
いっぱい母さんの中につ♡♡
ビュー♡

ビュルル

ドクッ

ドクッ

ビクッ

ビクッ

由紀子ッ！

俺の赤ちゃんしっかり妊娠しろ！

あッ

あッ

母親を組み敷き、実母のマンコに
チンポを打ち付ける。
俺を産み、育ててくれた女を
俺の手でメスに墮とす。

もう誰にも渡さないからなッ
このマンコは俺だけのだぞッ！

あッ♡あんっ♡
アナタっ♡あッ♡

はッ

1.0

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ

1.0

その日一番の量のザーメンを
母ちゃんの子宮に注ぎ込む。
膣が激しく収縮し、俺の精子を
飲み込んでいく。

うあつ！
母ちゃん、母ちゃんツ！

…おっ♡
おお…っ♡
♡

ビクッ

ビクッ

バキューン♡

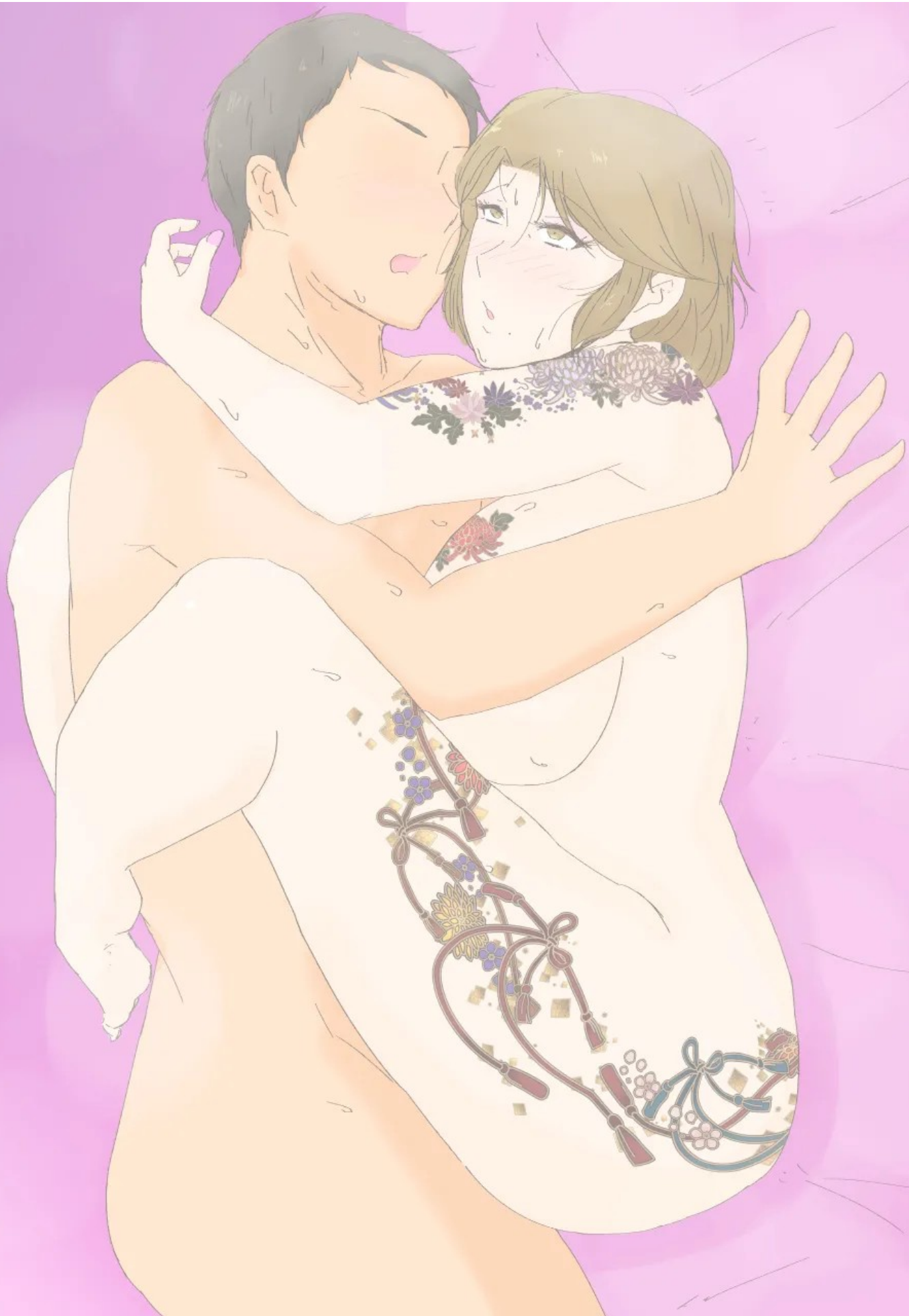
ドクッ♡

ビクッ

♡

ドクッ









—春—

ただいまー！

3月の陽気に包まれた中、
帰宅した俺は「妻」を呼ぶ。

聞き覚えのある足音が
近づいてくる。



おかえりっ♡

…母ちゃん。
かえって早々悪いんだけど…

大きくなったお腹を
大事に擦りながら母ちゃんが
台所からやってきた。
もちろん、お腹の子は俺の子だ。
俺は実母を妊娠させることに成功した。

…！
もう、しょうがないわね…♡



母ちゃんが服を脱ぎ、
一系まとわぬ姿になる。
俺のタネで孕んだお腹は
パンパンに膨らみ
異様ないやらしさを放つ。

由紀子…♡

夫の疲れを癒すのも、
妻の務め…よね♡

アナタ…♡



あっ♡おちんちんっ♡
気持ち良いっ♡
あゝ♡

はあ…はあ…♡
やっぱり由紀子のマンコ最高ッ♡



ホラ、お腹の赤ちゃんに
挨拶だっ！

母ちゃんの子宮口に
俺のチンポをノックさせる。

あつ♡奥までツ
届いてるっ♡♡♡

あ、まだ見ぬ俺の息子に
早く出てこいと催促するように
母ちゃんの奥を突く。



射精音が聞こえそうなほどの
ザーメンが放出される。
愛する母であり、妻でもある
由紀子の胎内に俺の遺伝子を
注ぎ込む。

おっ♡おおおん…っ♡

ビュルル

ドブッ

っふうー…♡

はっ…♡

あ、アంత…出し過ぎっ♡

あ。

はっ

はっ

はっ
俺の嫁がやらしすぎるのが
悪いんだって。
はっ

…もう…♡
エッチな子…♡

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ドロッ

♡

♡

♡

ちゃんと幸せにするから。
赤ちゃんも、由紀子も。

…絶対よ…♡
嘘ついたら
ただじゃおかないからね。

お、おう…!!
なんかこえーよ…母ちゃん…!!

…ふふっ♡
愛してるわ、アナタ…♡

End♡











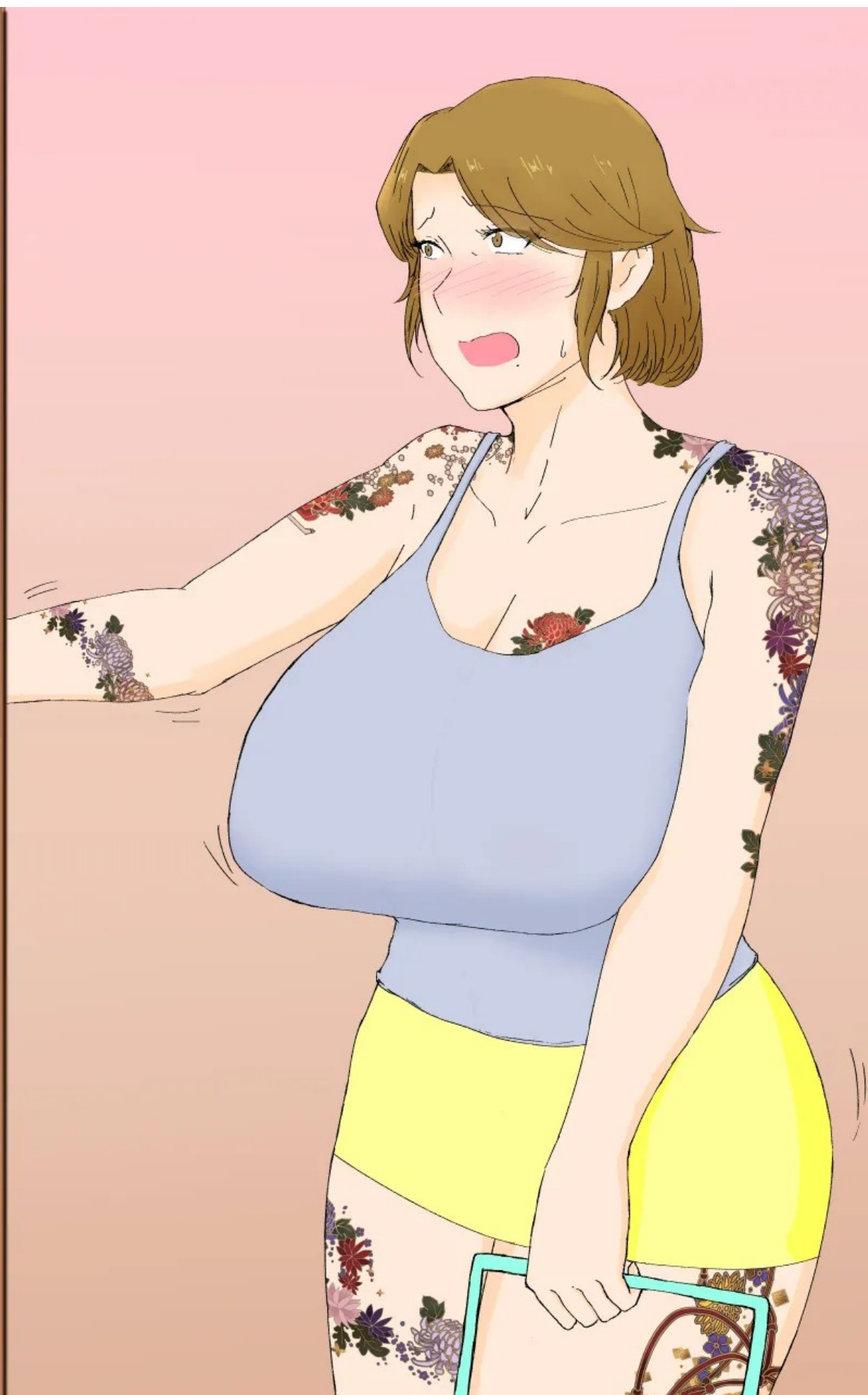


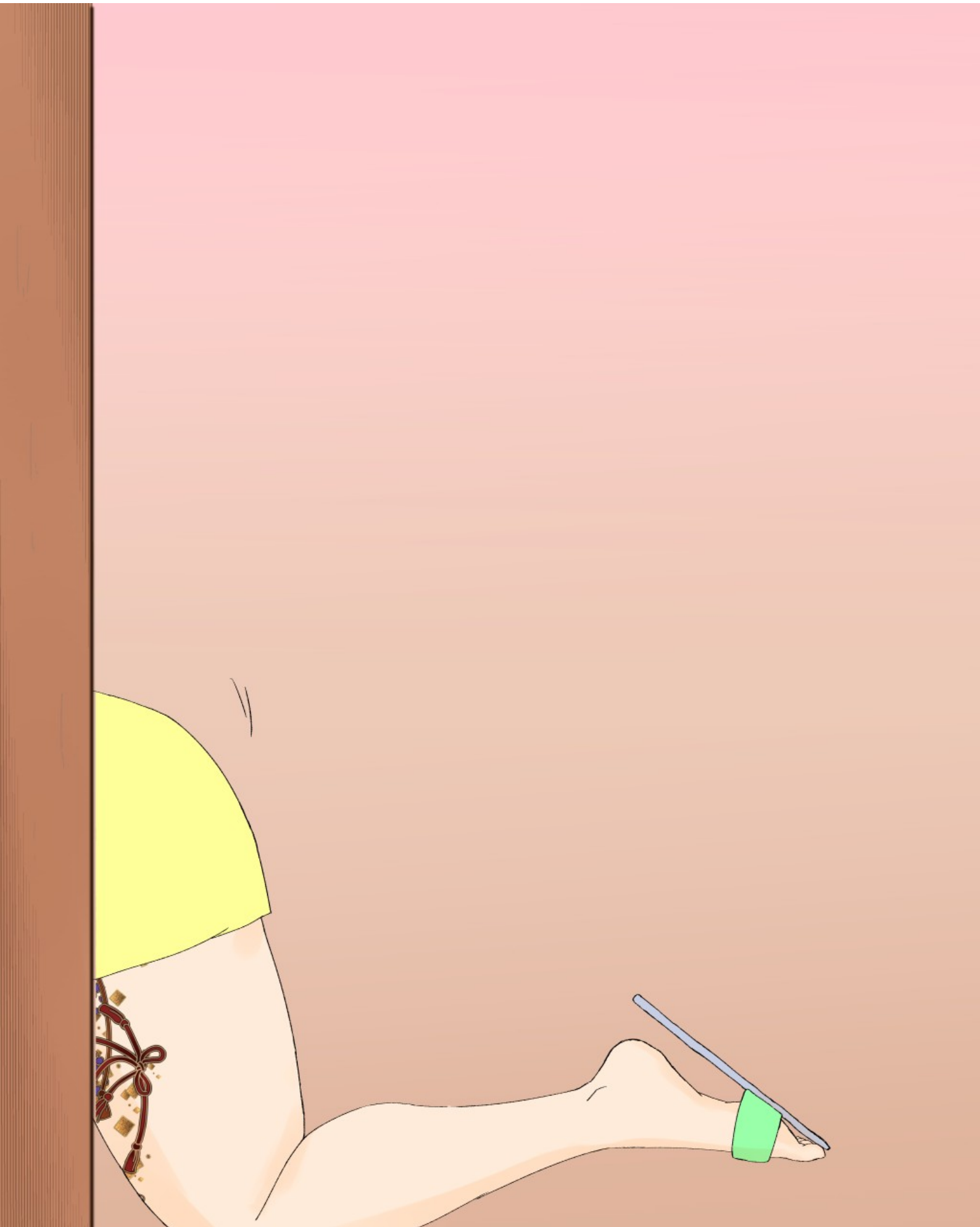




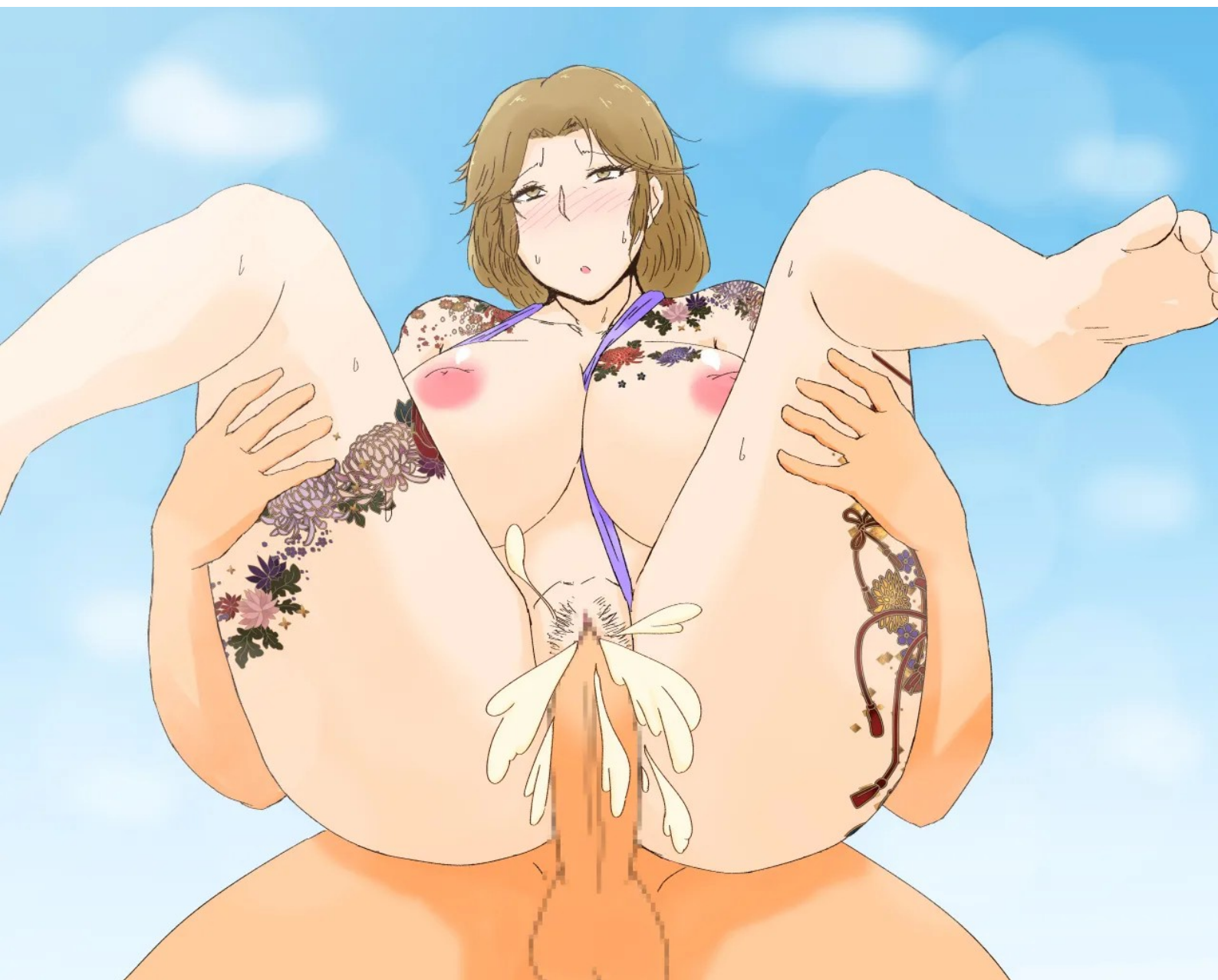




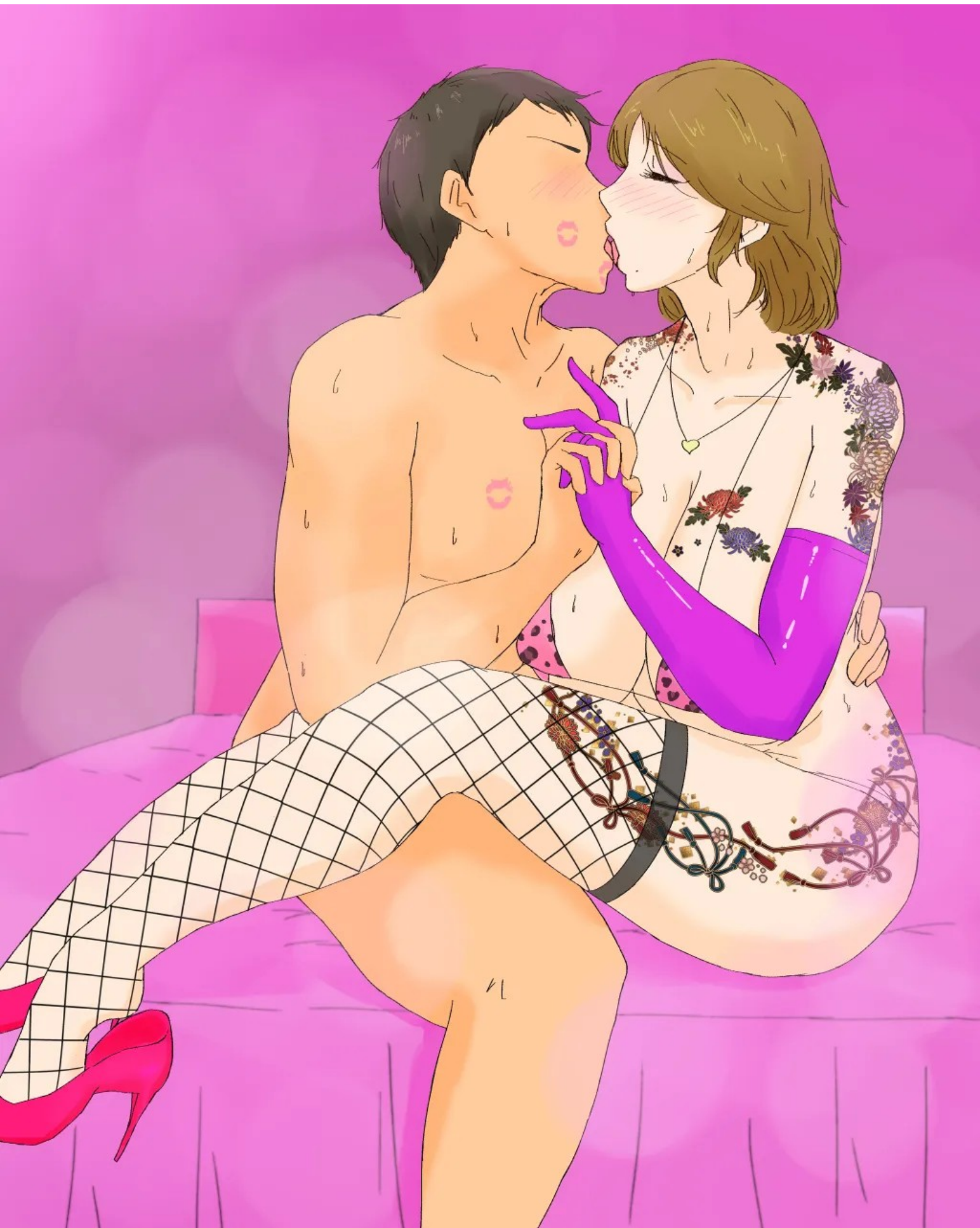


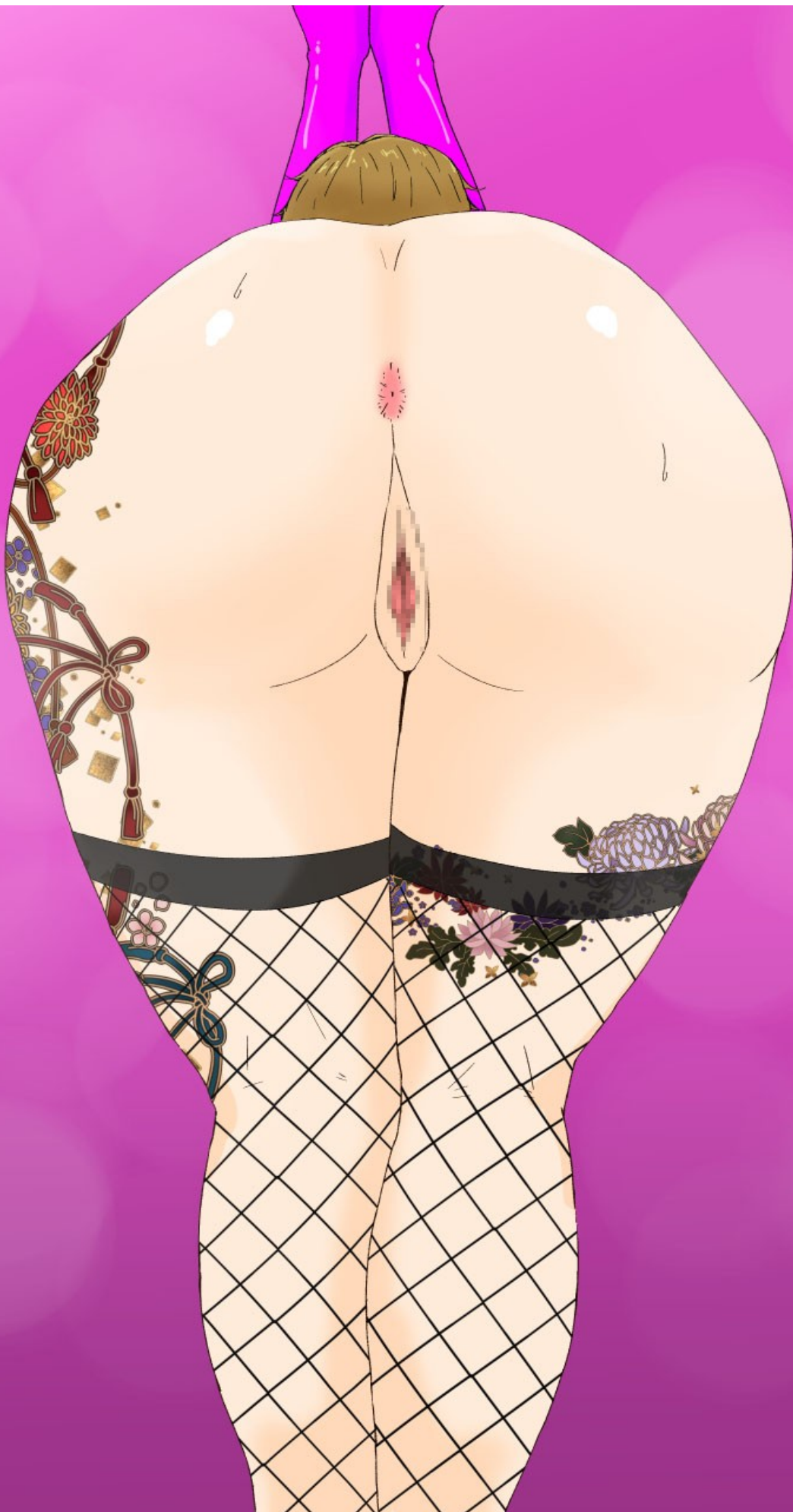




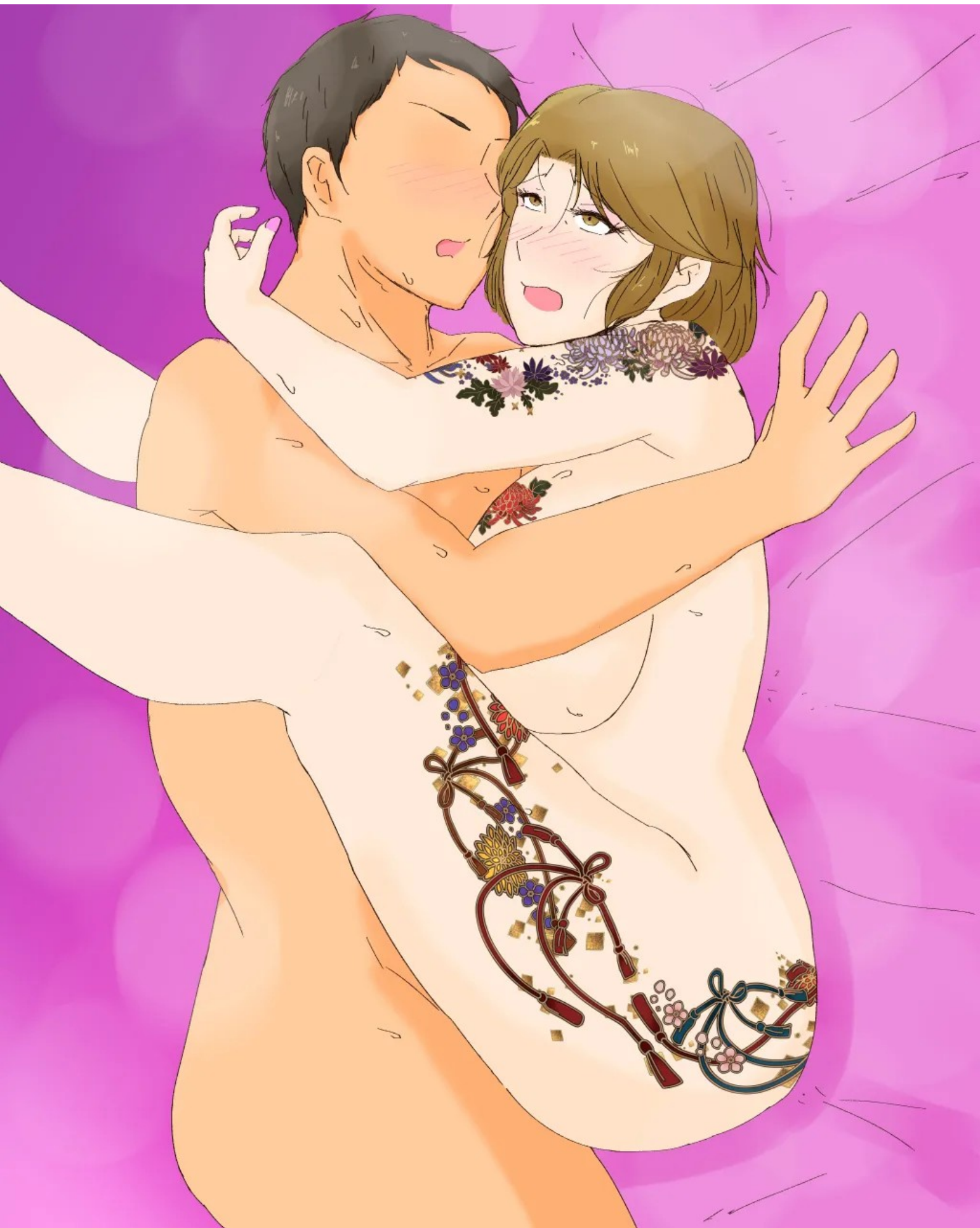


















母子三人

おかえりー
外あつついねー

くまの

そこそこにして
切り上げちゃった。
あ、スイカ食べるぞ。

おー食べる食べるー
やりやー

ただいま。
煙は？

母は亡き父が残した煙で

心で煙草をまよっている。

どこにでもいる普通の親子……

女子二つで父のソレにしてしまったまま

守っている母には感心する。

たっくん

まじすっくきナ男はナ勢いたが、
母は全て一蹴していた。

とあるきつがけから

はあ……はあ……
母ちゃん……
風……止まらない……

あつ……あんつ……
ダメ……

おつ……おおつ……
アタシたち……親子……あんつ……
なのよう……

気付けば俺は一心不乱に腰を振っていた。
夢にまでみた、女のマ○コ。
それも、母ちゃんのマ○コに息子チンポを

母子で肉体関係を持つように……

そう、俺は夫の親子なつ……
ふり……肉が詰まったこのお穴に
膚になつてしまった。

バン。

バン。

バン。

徐々に深まってゆくマントは、
「母」だもんね。

え、ええ……
……ありがとう。



「親子」でなく「男女」の関係……

当然だろ、母ちゃんは

……か、母ちゃん……

由紀子ッ！

そして二人の愛は、

母親を組み敷き、実母のまぐろに
チンポを打ち付ける。
俺を産み、育ててくれた女を
俺の手でメスに腫らす。

禁断の実母妊娠へと向かう……

もう誰にも渡さないからな。
このマクローも俺だけの大事なッ！

